

# 郡山集会ルポ

立ては、福島地裁郡山支部での審尋が大詰めを迎えていた。年間被ばく量1ミリシーベルト以下の安全な環境で教育を受けられるように—との切なる願いは「人権の最後の砦」たる裁判所に届くのか。15日には市民団体などがJR郡山駅前で集会を開き、熱い訴えを繰り広げた。

(小倉貞俊)



デモ行進する柳原敏夫弁護士（中央）ら  
参加者＝いずれも15日、福島県郡山市で

集会「ふくしまの子どもを守れ！郡山デモ」は、小雨交じりの午後一時から、駅西口広場で始まりた。県内外から百数十人が集まり、子どもと妊娠婦の参加は遠慮してもらつた。のぼり旗を掲げたり、「原発いらない」のプラカードを首から下げなどして、「ふくしまでマイクを握ったのは、

集団疎開裁判への意気込みをにじませていた。

「どんなに勇気が要る」とか、「どんなに怖かうことか…」裁判を始めた十四人の子どもと親たちに、深く敬意を表したい。福島の子どもの未来を守る貴重な一步です」発言者のトップを切つたことか…。裁判を始めたことか…。

# 学校疎開裁判大詰め

# 子供の未来 守る一步に



「見えないおりに閉じこめられてい るようだ」と訴える武藤類子さん

「健康被害防いで」

うにある」とのスピーチは、参加者の心を揺さぶるに成功。茫然自失のなり、ネットの動画などは、参加者が感銘を与えていった。この日の集会では、ベントを開いてきた。これが直後に原発事故が発生。茫然自失のか、経営する喫茶店も廃業に追い込まれた。団体

1号機の営業運転開始で県民の窮状を訴えた  
日だった同二十六日から「なにげなく差し込  
の一年間を「廃炉アクションセントの向こう側  
ヨン年」と位置付け、今世界を想像しなければ  
ならない。原発はその向

む。昨年十一月、福島第一原発1号機が今年三月で稼働から四十年を迎えるのを前に、脱原発運動をしてきた仲間ら約二十人と同団体を結成した。ち、約六万人の群衆のなかに、東京・明治公園で九日に開かれた「さよなら原発集会」に参加作家の大江健三郎氏ら、名人に交じって演台に登場した。

市民団体「ハイロアクシ」のメンバーも九州などヨン福島原発四十年実行委員会」のメンバー、武藤類子さん(五〇)だ。武藤さんは郡山市から東へ約十キロの三春町に住む。昨年十一月、福島第一原発、明治ヶ丘原発で二度目の避難地に避難し、しばらく地に避難し、しばらくなつてしまつたという。「福島からの声を届けたい」とて。知人からそんな頼を受けた武藤さんは

ユースの追跡

核実験が盛んだった。因果関係はわからないが、姉を白血病で亡くした。私たち大人が、全力で子どもたちの健康被害を防がないといけない」と、時折、声を詰まらせた

ようだ」と表現した。  
さうに、自身が脱原発への思いを深めたきっかけが披露した。「子どもたちのいる家庭の大気圈内

「私たちは、日々新しい  
ニュースに翻弄されてい  
る。あふれそうな涙を必  
死でこらえている」と強  
調。原発から遠く離れた  
横浜市で放射性物質のス  
トロンチウムが検出され  
たことや、自主避難者へ  
の補償軽視、線引きされ  
る除染の補助金などの問  
題を挙げ、「見えないお  
りに閉じこめられている

# 二 ち う 特 報 部

学校疎開裁判は今、どまつめ、これに裁判所がうなつてゐるのか。注目したためだ。

注目したためだ。

これまでの経緯をおさらいすると、事故から末までの被ばく積算値が五月二十五日の被ばく線量データを基にした積算値は、市内の小中七校で三・八〇一六・六七ミリシーベルトを記録。国際放射線防護委員会（ICRP）が定める一般公衆の被ばく限度一ミリシーベルトを大幅に超すと、十六人が申し立てた。弁護団と市への審査は九月八日までに三回あり、そこで結審する予定だった。当初は「敗色濃厚」と見られていたものの、弁護団が同日に提出した意見書により異例の延長戦にもつれ込んだ。省が八月末に県内の土壤汚染状況を公表。これを「 Chernobyl 」事故と比較した矢ヶ崎克馬琉球大名誉教授が「郡山市の汚染状況は、 Chernobyl の原発から百キロ以上離れたウクライナ・ルギズイ地区の移住権利と管理強化の地域と同程度。郡山でも同様の健康被害が起きた」とする意見書を

さりに、弁護団は八月度一ミリシーベルトを大幅に超すと反論の書面を提出した。比較について「詳しく述べられない」と言及。その上で「子どもには転校や他市町村での区域外就学（加害者）は東京電力。学校外での生活までの被ばく線量を管理する立場にななく、保護者が市に保全を求める権利はない」と主張する。

この危険だと思えば引つ越せばよいといふ「転校の自由」論。教育を受けたことが子どもの最大の日課である現実から、義務教育を行う当事者が事情の子どもたちを縛るものとなりかねない。

対する市は今月九日、セシウム以外に、より危険なストロンチウムなどを記録。国際放射線防護委員会（ICRP）が定めた検出も相次いでいる。その後、線量が高い張。その後、線量が高い張。その後、線量が高い張。

## 市は転校の自由主張

# これは人権放棄の宣言

末時点で約半人が市外へ転出し、逆に原発に近い自治体から約五百八十人が転入。校庭などの除染を進めているが、今もなお大多数が学んでいる。  
**弁護団は月末までに反論**書面を提出し、来月半ばにも決定が出る見通しだ。集会では、弁護団長の柳原敏夫弁護士（べ）が「市は被ばくの危険性に真っ正面から反論してい

## 発言者のスピーチに聞き入る集会の参加者たち

## 参加者に疑念

ない。歴史に永遠の汚点を残すような恥ずかしい主張だ」と切り捨てて、語気を強めた。

「裁判所の

卷之三

い手がな限推島す今ら料れ言

武藤から、県にされた、れれた、にさへ、、難、東北を忘、進が、りなりまぎりなめのめ、私

民は  
れ…  
のだ  
かに  
の東  
れな  
続は  
く横  
垂直  
たち  
くも  
しよ

真害核の裏に立つていて、その力の強さをうかがう。

・19  
は隠  
実験  
（四）

曰りとことうう原が燃はて材験さ發

ほかに、俳優山本太郎さんら各地から集まつた参加者が次々とメッセー ジや思いを披露した。午後二時、隊列を組んで駅前を出発し、市役所までの約一・七キロ練り歩いた。市職員は不在だったものの、市へのアピール文を朗読。最後は山本さんの音頭で「裁判長、頑張ってください」と「一ル」した。